～終わりの見えない作品～

C 班　草刈　橋本　矢作　和田

はじめに

私たち C 班は、今回株式会社キタムラの社長である浜田宏幸社長にインタビューさせていただきました。株式会社キタムラの事業内容は**カメラのキタムラ**の運営はもちろんのこと、記念日スタジオ**スタジオマリオ**の運営、スマートフォン**販売のモバイル**事業やインターネット販売の **EC 事業**、さらに Apple 製品の修理サービス**アップル製品サービス**の運営など幅広い分野で事業を展開しています。

浜田宏幸さんのプロフィール

１９５７年８月３１日生まれ
愛媛県出身
大阪芸術大学卒業

～インタビュー内容～

浜田社長の２０歳の頃

浜田社長は、２０歳の頃、特にこれといった夢はなく

好きなことをして暮らしたい

というのが１番だと考えていました。現在、社長になられていますが当時は狙っていたわけでも、考えていたわけでもありませんでした。

大学時代は、レコード屋さんでアルバイトをしていました。朝、学校の授業の前にアルバイトをやり、授業の合間にまたアルバイトをやり、夜も学校帰りにアルバイトというバイト尽くしの１日も少なくはなかったそうです。レコード屋さんでは、店員がそれぞれ自分好みに品揃えができたため、自分たちの好きなものをお勧めできて売れると嬉しくて、

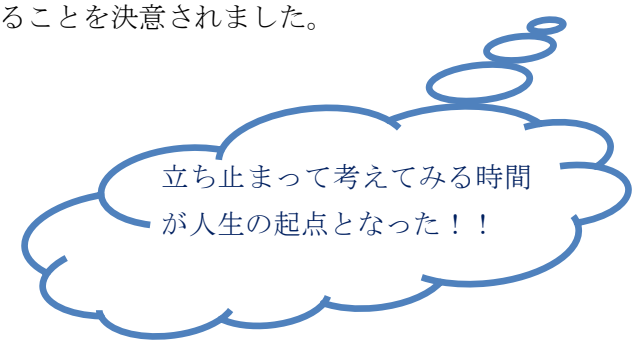
お金を稼ぐことがそのまま楽しみ

になり、みんなでどんなお店に作り上げていくか考えながら働くことは自分にとって非常に貴重な体験だったと語ってくださいました。

また、20 歳の頃生活する上で、

自分のやりたいことをできる環境をどう維持するか

を意識していて、やりたい事をやるためにお金を稼ぐというのはもちろんですが、周りの人の意見よりも自分の意思を大切にしていた方なのだなと感じました。浜田社長の家系が代々建築家の関係の仕事に就いていたこともあり、父親としては土木の道に進んでほしいという願いがありましたが、浜田社長はその道には進まず自分のやりたいことを突き詰めた結果、芸大で放送関係をやることを決意されました。

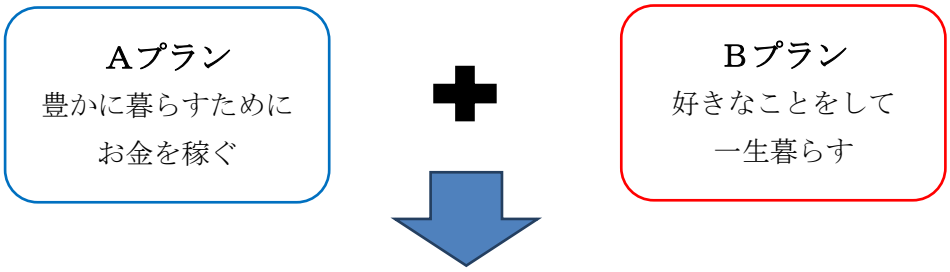


⇒浜田社長にとっては 1 年間の浪人生活と失業保険をもらい生活していた半年間

会社のモットー

明るく・朗らか・のびのびと

お客さんが満足して帰ってもらえるように、従業員もただお金を稼ぐために働くのではなく、一人一人が仕事にやりがいを持って働いてほしいという願いが込められています。



好きなことを仕事にもできる！

社長がこのように考えるようになったのも、今の会長に出会い、「会社という出来上がった組織にただ参加するだけでなく、会社も創造物。自分好みに変えればいい」という言葉がきっかけだとおっしゃっていました。

力を入れていること

キタムラが運営するスタジオマリオでは、働いている９９％が女性スタッフで、入社してから１年で店長になる人がほとんどだそうです。また、結婚や出産で一度会社を辞めてしまっても、また、落ち着いた頃に戻ってくることが可能です。このように、女性が短い期間で活躍でき、女性が働きやすい環境が整っています。

他にも、階層が少ないというのもキタムラの特徴です。

店長→地区の責任者→事業部長→社長

階層を少なくすることによって、お客さんとの距離が遠くならないようになっています。お客さんに寄り添い、常に満足してもらえるようなサービスや商品を提供することが大切だと、社長はおっしゃっていました。

新しい自分に進化するためには

欲望 → エネルギー

「～やりたい」「～なりたい」という欲望を常に持ち、それをエネルギーに変えていく。どんな自分になっていると自分自身が満足できるのかを考えることで、自然と欲は生まれるとおっしゃっていました。自分がやりたいことに対して、何かしらの成果が出るように、欲望をエネルギーに変えていくことで、新しい自分へと進化できる！

これから求められる人物像

①自分が会社を創っていくという意欲がある人

雇用も経歴も一切無関係で、会社に参加するだけでなく、参加することで会社という作品を自分達で作り上げながら仕事に対してやりがいを見つけていき、自分が活躍しようという気持ちで働いてほしいとおっしゃっていました。

②計画されてない今日を楽しめる人

接客業は１回１回が勝負の世界で、何が起こるか分からないですが、どれだけお客様のためにできるか、お客さんにとってのキタムラの印象は店員一人一人の総和で決まるとお話してくださいました。

感想

社長へのインタビューを終えてみて、まず初めに思ったことそれは、社長になるような人は学生時代から思い描く夢だったり目標だったりがあって、そこを目指して過ごしてきた人なのかなと思っていましたが、浜田社長は今の私たちと少し似ているところがありました。２０歳の頃これといった夢もなく、ただ好きなことを好きなだけやって過ごしていて、時には立ち止まって自分の本当にやりたいことを突き詰めていくうちに、結果としてこうなったとおっしゃっていました。私たち４人も今、夢があるわけではありません。しかし、やりたいことを積極的に行動していく学生時代の過ごし方でもいいのかなと少し安心できるものがありました。また、浜田社長は、会社だって創造物、なんだってクリエイティブなものとお話してくださいました。これは、終わりの見えない作品という題名につながっていて、出来上がった組織に参加するだけでなく、参加し思いついたことがあるのなら自分好みにどんどんと変えていく、会社も学校も全部創造物。会社を作品として、面白い会社にしたいという社長のお話が印象に残り、題名を考えさせていただきました。

今回の経験を踏まえて、自分たちがやってみたい！と思う欲望を大切に、多くのことにチャレンジしていこうと思います。そうして、きっとこれからのゼミ生活を含めた大学生活が“楽しかった！”と思えるところにとどまらず、自分の将来に繋がるものが得られたり、出会えたりするそんな生活を送っていきたいと思います。

お忙しい中、私たちのインタビューを引き受けて下さったこと心から感謝し、改めてお礼申し上げます。